

# 外 国 語

## 目 次

1	外国語科改訂のポイント	1
2	外国語科の目標及び内容のポイント	2
3	指導計画の作成と内容の取扱いのポイント	12
4	指導例	13

# 1 外国語科改訂のポイント

## (1) 改訂の趣旨

中央教育審議会の答申を踏まえ、次の四つの基本方針に基づいて改善が図られている。

- 自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。
- 指導に用いられる教材の題材や内容については、外国語学習に対する関心や意欲を高め、外国語で発信しうる内容の充実を図る等の観点を踏まえ、4技能を総合的に育成するための活動に資するものとなるよう改善を図る。
- 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。また、コミュニケーションを内容的に充実したものとすることができるよう、指導すべき語数を充実する。
- 中学校における「聞くこと」、「話すこと」という音声面での指導については、小学校段階での外国語活動を通じて、音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ、指導内容の改善を図る。併せて、「読むこと」、「書くこと」の指導の充実を図ることにより、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の四つの領域をバランスよく指導し、高等学校やその後の生涯にわたる外国語学習の基礎を培う。



・身近な事柄について一層幅広いコミュニケーションを図ることができるよう、

①授業時数を各学年とも年間105時間から140時間に増加させている。

②指導する語数を「900語程度まで」から「1200語程度」へと増加させている。

・指導事項の更なる定着を図るため、文法事項等の指導内容はおおむね従来のままとしており、\*新たな指導事項の追加はほとんど行われていない。

・これまでの学習指導要領において、「…については、理解の段階にとどめること」等と定められていた、いわゆる「はどめ規定」については、記述を改め、各学校がそれぞれの創意工夫を生かした特色ある授業を実施できることが更に明確になるよう見直されている。

※文法事項の変更点については、本書p. 4(3)英語の内容①言語活動を、言語材料の取扱いに新たに加えられた事項については、p. 9(3)英語の内容④言語材料の取扱いを参照のこと。

## (2) 改訂の要点

### ① 目標の改善の要点

外国語科の目標は、コミュニケーション能力の基礎を養うことであり、次の三つを念頭に置くこととしている。

- ・外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。
- ・外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

・聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。  
小学校に外国語活動が導入され、特に音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地が育成されることになったことを踏まえ、中学校段階では、「聞くこと」、「話すこと」に加え、「読むこと」、「書くこと」を明示することで、小学校における外国語活動で育まれた素地の上に、これらの4技能を総合的に育成することとしている。また、英語の目標において、「聞くこと」、「話すこと」の領域に関わる記述に盛り込まれていた「慣れ親しみ」という文言を削除している。

## ② 内容等の改善の要点

内容については、その構成は変わっていないが、領域ごとに示す言語活動の指導事項を次のとおりそれぞれ1項目ずつ追加または再編成し、各5項目としている。

- ・「聞くこと」においては、「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること」を追加した。
- ・「話すこと」においては、「与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること」を追加した。
- ・「読むこと」においては、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」を追加した。
- ・「書くこと」においては、これまでの(ウ)「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」と(エ)「伝言や手紙などで読み手に自分の意向が正しく伝わるように書くこと」を再編成し、次の3項目とした。
  - (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
  - (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
  - (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

授業時数を各学年105時間から140時間に増加させたことで、言語活動の充実を通じて言語材料の定着を図るとともに、コミュニケーション能力の一層の育成を目指している。

## 2 外国語科の目標及び内容のポイント

### (1) 教科の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

#### ① 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。

外国語の学習において、その言語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどが分かるようになることや、その言語の背景にある文化に対する理解を深めることが重要である。また、そういったことを通して、同時に自分たちの言語や文化に対する理解が深まることが期待される。これらはコミュニケーションを図る上で重要な働きをするものである。

#### ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

コミュニケーション能力を育成するためには、コミュニケーションへの積極的な態度を身に付けることが重要である。積極的に自分の考えを相手に伝えようとしたり、相手の考えを理解しようとしたりするなどのコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が十分でなければ、一定の基本的な知識や技能を身に付けていたとしても、それを活用して実際にコミュニケーションを行うことは難しい。

③ 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

外国語によるコミュニケーション能力の育成を目標の最後に置くことによって、最重要事項であることを強調している。併せて、4技能の総合的な育成という改善の基本方針も盛り込まれている。今回の改訂により、小学校に外国語活動が導入され、特に音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地が育成されることになったため、中学校段階では、「聞くこと」、「話すこと」に加え、「読むこと」、「書くこと」を明示することで、小学校における外国語活動で育まれた素地の上に、これらの4技能をバランスよく育成することの必要性を強調している。



③は外国語科の目標の中核をなしているが、①や②と不可分に結び付いたものである。コミュニケーション能力を身に付けさせるには、①の言語や文化に対する理解を深めたり②の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成したりすることが必要であり、同時に、コミュニケーション能力を向上させる取組を通して、①の理解が深まったり、②の態度が養われたりする。

なお、言語や文化に対する理解を深めたり、コミュニケーションへの積極的な態度を育成したりするためにはいろいろな方法がありうるが、外国語科としては、「外国語を通じて」という教科に特有な方法によって目標の実現を図ろうとするものであることを明確にしている。

## (2) 英語の目標

- (1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
- (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- (4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

- 「聞くこと」・・・英語を聞いてその意味を表面的に理解するだけでなく、話し手の意向などを理解できることを重視している。
- 「話すこと」・・・与えられた語句や文を繰り返すことができるだけでなく、自分の考えなどを話すことができることを重視している。
- 「読むこと」・・・英語を読んでその意味を表面的に理解するだけでなく、書き手の意向などを理解できることを重視している。
- 「書くこと」・・・与えられた語句や文を書き写すことができるだけでなく、自分の考えなどを書くことができることを重視している。



・3学年間でコミュニケーション能力の基礎を育成できるよう、各学校が生徒の学習の実態に応じて学年ごとの目標を設定することが適切であるため、学年ごとの目標は立てず、3学年間を通じて目指すべき目標を示している。

・実際に英語を使用してコミュニケーションを図ることを念頭に置き、単に英語を表面的、機械的に理解したり表現したりする能力にとどまらず、より踏み込んだ能力を目標にしている。

・目標の中にある「初歩的な英語」とは学習指導要領の2(3)「言語材料」に示された語や文法事項などの範囲の英語を指している。

### (3) 英語の内容

#### ① 言語活動

言語活動の充実を通じて、言語材料の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を育成するため、英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする基礎的な言語活動をバランスよく計画的・系統的に行うことが大切である。そのため、授業時数を各学年で105時間から140時間に増加させながらも、指導すべき語数を除き、<sup>\*</sup>文法事項等の指導内容はほとんど増加させていない。この点を踏まえながら、以下に示す事項について改善が図られている。

※ 関係代名詞、to不定詞及び動名詞については、「基本的なもの」、受け身については「現在形及び過去形」という制限がなくなった。また、「理解の程度にとどめること」としていた主語+動詞+whatなどで始まる節、主語+動詞+間接目的語+how(など)to不定詞、関係代名詞のうち、主格のthat、which、who及び目的格のthat、whichの制限的用法について、その制限がなくなった。

#### ○ 言語活動の指導事項

- ・各領域とも四つの指導事項で構成していたものを、五つの指導事項に変更し、充実が図られている。
- ・生徒の学習の習熟の程度に応じて3学年間で必要な内容を繰り返して指導するなど、教員が創意工夫しやすいよう、学年ごとではなく3年間を通して一括して示されている。

#### ○ 言語活動の取扱い

「言語の働きの例」について、小学校及び高等学校における分類との統一を図る観点から、内容は踏襲しながら再構成されている。

- ・学習段階を考慮した指導上の配慮事項では、第1学年から第3学年までの言語活動や取り上げる話題のとらえ方について、既習の学習内容を繰り返して指導し定着を図ることで学習の深まりを目指すことが示されている。
- ・小学校における外国語活動と中学校における英語の学習との円滑な接続が図られるよう、第1学年では小学校段階での外国語活動を通じて育成された素地を踏まえることへの配慮が示されている。

#### ア 聞くこと

(ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。

- ・基本的な音声に関する学習内容としては、言語材料の「ア 音声」に示されているように、(ア)現代の標準的な発音、(イ)語と語の連結による音変化、(ウ)語、句、文における基本的な強勢、(エ)文における基本的なイントネーション、(オ)文における基本的な区切りの5項目があるので、これらについて十分な指導を行う必要がある。
- ・「正しく聞き取ること」とは、強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて音声を的確に聞き分けることである。

(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。

- ・「自然な口調」の英語とは、現代の標準的な発音で正しい強勢、イントネーション、

区切りを伴い、適切な速さで話されたり読まれたりする英語のことである。

- ・「情報を正確に聞き取ること」とは、英語を聞き取るとき、音の変化やスピードに対応して事実や出来事などについての必要な情報を正しく理解するということである。
- (ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
- ・依頼などの話し手からの働きかけに対する反応の仕方は、場面や状況、聞き手によって様々であるので、場面の設定を工夫しながら幅広く言語活動を行うことが大切である。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。
- ・相手に聞き返してコミュニケーションを継続するために必要となる表現を指導するとともに、コミュニケーションを継続しようとする積極的な態度を育成することが重要である。
- (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。
- ・この指導事項は、今回の改訂で新たに加えられたものである。
  - ・「まとまりのある英語」とは、スピーチや機内アナウンス、天気予報などのように、一つのテーマに沿って話されたものや内容に一貫性のあるものなどを示している。話し手が伝えたいことや、聞き手として必要な情報を理解できるようになることが必要である。

## イ 話すこと

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
- ・この指導事項は、「話すこと」の(イ)から(オ)までの四つの指導事項の基礎となる技能を身に付ける言語活動であるので、繰り返して指導し定着させることが大切である。その際、日本語との違いを取り上げるなどして英語の特徴を理解させる工夫が必要である。
- (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
- ・適切な声量で明瞭に話すなど聞き手を意識し、的確な英語を使って、大切なところは強調して話したり、聞き手が分かりにくいところは繰り返したり他の表現で言い直したりなどして、「聞き手に正しく伝える」ことを示した活動である。
  - ・「事実」とは、考えや気持ちなどの主観的なものに対して、客観的なものを意味している。例えば、日常生活の日課や趣味、特技などの個人的なものから一般的・普遍的なものまで幅広く含むものである。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。
- ・「問答したり」とは、聞いたり読んだりなどした事柄について、理解を確実にしたり考えを深めたりするために、互いに分からない点や確かめたい点などを尋ねたり、答えたりすることを意味する。
  - ・「意見を述べ合ったり」とは、理解したことについて自らの感想や考えを伝え合うことである。
- (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
- ・紋切り型の応答や一往復だけの言葉のやりとりで終わってしまうのではなく、必要な



表現や技法を用いて会話を継続・発展させることを示している。

「いろいろな工夫」としては次のようなことが考えられる。

- ・会話を始めたり発展させたりするために、相手に質問をする。
- ・知らない表現については、身振り手振りや既習の表現などを使い、何とかして自分の考えを伝える。
- ・相手が話しやすいように、相づちをうつ表現を適宜用いる。

(ウ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

- ・この指導事項は、今回の改訂で新たに加えられたものである。
- ・生徒の学習段階や興味・関心に合わせて、適切なテーマを与え、絵や実物を示して聞き手の理解を容易にするなどの工夫をさせることが大切である。

#### ウ 読むこと

(ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。

- ・「文字や符号を識別し、正しく読むこと」とは、アルファベットの文字の形の違い、各符号のもつ意味や使い方などを認識した上で、英語の綴りを見て正しく発音できることである。

(イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。

- ・黙読の指導に当たっては、読み手が自分に合った速度で読むことができ、確認のため繰り返して読んだり、前に戻って読み返したりして柔軟な読み方をすることができるといった黙読の特徴を十分に生かすようにすることが大切である。
- ・書かれた内容が表現されるように音読するためには、語句や文、まとまりのある説明文、意見文、感想文、対話文、物語などの意味内容を正しく理解し、その意味内容にふさわしく音声化するよう指導する必要がある。

(ロ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

- ・指導に当たっては、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容を尋ねる質問をしたり、また設問の仕方に工夫をしたりするなど、正確な読み取りのための配慮が必要である。

(ハ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。

- ・「適切に応じる」とは、例えば、手紙の内容に応じて必要な返事を書いたり、電話をかけたり、メモを書いたり、あるいは簡単な絵や図表を用いたりして、読み手が書き手の意向をくんで応じることである。

(ニ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

- ・この指導事項は、今回の改訂で新たに加えられたものである。
- ・「感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどする」とは、話の内容や書き手の意見などを適切に理解することを前提として、学習段階に応じて、既習の表現を用いて、読み手としての感想や意見、賛否及びその理由を表現させることである。
- ・目的をもって読んだり、読んだ後に感想等を表現し合ったりする活動を計画的・系統的に行わせることが大切である。

#### エ 書くこと

(ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。

- ・「書くこと」の言語活動のうち最も基本的な技能の習熟を求めたものである。

- ・繰り返し指導することにより、文字や符号についての知識や技能の確実な定着を図り、正確に分かりやすく書けるようにする必要がある。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
- ・この指導事項は、今回の改訂で新たに追加されたものである。
  - ・「正しく文を書く」とは、正しい語順や語法を用いて文を構成することを示している。
  - ・生徒に英語の文構造や語法を理解させるために、語の配列や修飾関係などの特徴を日本語との対比でとらえて指導を行うことも有効である。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。
- ・生徒が聞いたり読んだりした内容に主体的に関わりをもち、それを踏まえて自分の感想、内容に対しての賛否やその理由を書くことが大切である。
- (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
- ・家庭や学校などの日常生活の中で起こったことや、旅行や行事の体験など、実際に自分が体験したことなどについて自分の考えや気持ちなどを自由に書く活動が示されている。
- (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。
- ・「文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」の部分は、今回の改訂で新たに追加されたものである。
  - ・「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わる」ためには、一文一文を正しく書くだけでなく、接続詞や副詞も使って、文と文の順序や相互の関連にも注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くようにすることが大切である。
  - ・「文と文のつながり」は、接続詞や副詞による他、代名詞を用いたり、Japanをthe countryと置き換えたりするなどの言い換えの手法によって示されることもあることから、こうした手法も適切に用いながら、一貫性の高い文章を作ることができるようにすることが求められる。

## ② 言語活動の取扱い

### ○ 3 学年間を通して配慮すべき事項

- ・言語活動では、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動が重要であるが、それを支える言語材料について理解したり練習したりする活動も必要である。その両者のバランスに配慮しつつ指導することが重要である。
- ・実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動の中では、表現しようとすることを個々の生徒が自ら考え、ふさわしい表現を選択できるように配慮することが大切である。
- ・言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。

#### 〔言語の使用場面の例〕

##### a 特有の表現がよく使われる場面

- ・あいさつ・自己紹介・電話での応答・買物・道案内・旅行・食事 など



- b 生徒の身近な暮らしにかかわる場面  
・家庭での生活・学校での学習や活動・地域の行事 など

[言語の働きの例]

- a コミュニケーションを円滑にする  
・呼び掛ける・相づちをうつ・聞き直す・繰り返す など
- b 気持ちを伝える  
・礼を言う・苦情を言う・褒める・謝る など
- c 情報を伝える  
・説明する・報告する・発表する・描写する など
- d 考えや意図を伝える  
・申し出る・約束する・意見を言う・賛成する・反対する・承諾する・断る など
- e 相手の行動を促す  
・質問する・依頼する・招待する など

○ 各学年の指導において配慮すべき事項

(ア) 第1学年における言語活動

小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえ、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること。その際、自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

(イ) 第2学年における言語活動

第1学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを更に広げた言語活動を行わせること。その際、第1学年における学習内容を繰り返して指導し定着を図るとともに事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

(ウ) 第3学年における言語活動

第2学年までの学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを一層広げた言語活動を行わせること。その際、第1学年及び第2学年における学習内容を繰り返して指導し定着を図るとともに、様々な考えや意見などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

- ・第1学年においては、小学校での外国語活動において音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度や、言語や文化に対する体験的な理解等の一定の素地が育成されていることに配慮しながら、「聞くこと」「話すこと」に関しては、小学校の外国語活動でも慣れ親しんだことのあるような身近な言語の使用場面や言語の働きを用いた言語活動を行わせることで、中学校における外国語の学習の円滑な導入を図ることが重要である。
- ・「読むこと」「書くこと」といった文字を使った言語活動については、中学校で本格的に学習を開始することに配慮し、生徒が過度の負担を感じないように指導することが重要である。
- ・言語活動を行う際には、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の

四つの領域のバランスに配慮した言語活動を行わせることが重要である。

- ・第2学年においては第1学年での学習内容を、第3学年においては第1学年及び第2学年での学習内容を、言語活動の中で繰り返し学習することで、言語材料の定着を図るとともに、それらを実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動において活用させることが重要である。

### ③ 言語材料

言語材料は、「音声」、「文字及び符号」、「語、連語及び慣用表現」、及び「文法事項」の四つから構成されている。そのうち今回の改訂では、以下に示す事項について改善が図られている。

#### ○ 言語材料の改善事項

- ・より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションを内容的にもより充実できるようにするため「語、連語及び慣用表現」については、指導する語の総数を1200語程度としている。
- ・従来の学習指導要領で用いられていた「文型」に替えて「文構造」という用語が用いられている。これは、「文型」という型によって分類する指導に陥らないように配慮し、文の構造自体に目を向けることを意図しているためである。
- ・関係代名詞、to不定詞及び動名詞については「基本的なもの」、受け身については「現在形及び過去形」という制限がそれぞれ削除されている。ただし、「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること」、「文法事項の取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるように指導すること」とされていることから、過度に難しいものや複雑なものに偏ることなく、適切なものを扱うことが重要である。

### ④ 言語材料の取扱い

言語材料について、その指導の在り方を適切なものとし一層の定着を図るため、言語材料の取扱いにおいて1箇所を変更するとともに、次のア～エの四つの事項を新たに示している。



#### <変更点>

「理解の段階にとどめること」としていた事項について、その制限をなくし、表現の段階まで高める指導を行うこととされた。

※主語+動詞+whatなどで始まる節、主語+動詞+間接目的語+how(など)to不定詞、関係代名詞のうち、主格のthat、which、who及び目的格のthat、whichの制限的用法について、その制限がなくなった。

#### ○ 新たに示された事項

ア 発音と綴りとを関連付けて指導すること。

- ・小学校の外国語活動では、音声を中心に慣れ親しみ、それを受けて中学校では文字を通じた学習が始まるため、音声と文字の関係に触れた学習をすることが適切である。

イ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

- ・円滑に、かつ豊かな内容を伴うコミュニケーションを行うためには、正しい文法の

基盤が必要不可欠である。文法事項を指導する際には、その意味や機能を十分に理解させた上で、それまでに学んだ語彙や文法事項と関連を図り、言語活動の中で自分の考えや気持ち、事実などを伝え合うことに生かすことが大切である。

ウ 文法事項の取扱いについては、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること。

- ・日本語との違いを意識させることは、単に英語に特有の語順等に注意を向けさせるだけでなく、日本語を含めた言語に関する能力の向上に資するものと考えられる。

エ 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること。

- ・文法事項を指導する際、一つ一つの事項の指導において英語の特質を理解させるだけでなく、関連のある文法事項についてはより大きなカテゴリーとして整理して理解させることが必要である。

- ・「まとまりをもって整理する」とは、既習の文法事項と新しく学んだ文法事項の共通した特徴を、例えば「まとめ」などとして比較対照しながら整理し、効果的な指導ができるようにするなどの工夫をすることである。

#### (4) 指導計画の作成と内容の取扱い

##### ① 指導計画の作成上の配慮事項

ア 各学校においては、生徒や地域の実態に応じて、学年ごとの目標を適切に定め、3学年間を通して英語の目標の実現を図るようにすること。

学年ごとの目標を定めるに当たっては、次のようなことに配慮すること。

- ・第1学年においては、特に、小学校における外国語活動の内容や指導の実態等を十分に踏まえること。

- ・生徒の学習段階、興味・関心等の実態を踏まえること。

- ・外国語学習に関わる地域の環境や実態等を踏まえること。

イ 言語材料については、学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。

- ・言語材料の指導については、例えば、学習の基礎の段階では単純な構造の文を取り上げ、学習が進むにつれて複雑な構造の文を主として取り上げるようにすることが大切である。

ウ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して音声について示された言語材料を継続して指導すること。また、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできること。

- ・特に日本語との違いに留意し、正しい英語の音声に身に付くように指導していくことが大切である。

- ・視聴覚機器を活用したり、ネイティブ・スピーカーの協力を得たりなどしながら、継続的な指導をしていくことが大切である。

- ・発音表記については、特に指導する表記方法や学年に指定はないが、あくまでも音声指導の補助として利用するものであり、発音表記そのものの詳細な指導に偏りすぎて生徒の過度の負担にならないよう配慮する必要がある。

エ 文字指導に当たっては、生徒の学習負担に配慮し筆記体を指導することもできるこ

と。

- ・筆記体を指導することは、文字に対する興味付けともなり、有益であると考えられるが、生徒の負担を十分に考えて指導に当たることが大切である。

オ 語、連語及び慣用表現については、運用度の高いものを用い、活用することを通して定着を図るようにすること。

- ・「運用度の高いもの」とは、「言語活動の取扱い」に示された〔言語の使用場面の例〕や〔言語の働きの例〕として挙げられている場面や働きにおいてよく使われる身近な語や連語及び慣用表現のことである。
- ・単に機械的に記憶させるのではなく、あくまで具体的な場面や状況で適切に用いるようにして定着を図ることが極めて大切であることから、今回新たに「活用することを通して定着を図るようにする」ことが明示された。

カ 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること。

- ・辞書の使い方に慣れさせるためには、生徒が適宜辞書を繰り返し使用し、調べたい単語を辞書を使って自由に調べさせるということを普段から行わせる必要がある。

キ 生徒の実態や教材の内容などに応じて、コンピュータや情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用したり、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得たりなどすること。また、ペアワーク、グループワークなどの学習形態を適宜工夫すること。

- ・コンピュータや情報通信ネットワークを使うことによって、教材に関する資料や情報を入手したり、電子メールによって情報を英語で発信したりすることもできる。このような活動を通して、生徒一人一人が主体的に世界と関わっていこうとする態度を育成することもでき、教育機器は英語教育にとって大切な役目を果たすものとして考えられる。
- ・「ネイティブ・スピーカーなど」とは、ALTの他に、地域に住む外国人、外国からの訪問者や留学生、外国生活の経験者、海外の事情に詳しい人々など幅広い人々が考えられ、これらの人々の協力を得ることにより活発な言語活動や国際理解教育の推進を図ることが考えられる。

## ② 教材選定の観点

○ 教材は、目標である「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎」を総合的に育成するために、適切なものを選定する必要がある。その際に、「言語活動の取扱い」に示されている〔言語の使用場面の例〕や〔言語の働きの例〕などに十分配慮したものを取り上げることが大切であり、特に今回の改訂では、4技能を統合的に活用させる言語活動の充実が図られていることから、こうした指導に資する教材が取り上げられることが求められる。

○ 題材を取り上げるに当たっての配慮事項としては、英語を使用している人々だけでなく、他の言語を使用する人々に関しても理解を深めるとともに、日本人に対しても理解を深めることをねらいとするような題材などから適切に選択して取り上げることが必要である。

○ 教材の選定に当たって、今回の改訂で「コミュニケーション能力を総合的に育成する」ことが明示され、「伝統文化」や「自然科学」などが例示に追加されている。



#### 題材の選択に関して示されている三つの観点

- ・多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
- ・外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- ・広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

#### (5) その他の外国語

英語以外の外国語を指導する場合については英語に準じて行う。まず、外国語科の目標に基づくこと、次に英語の目標及び内容に準じて行うことが必要である。内容は、「言語活動」と「言語材料」からなるが、それぞれ「言語活動の取扱い」と「言語材料の取扱い」も示されているので、これらも十分参考にして、適切な指導計画を作成することが大切である。

### 3 指導計画の作成と内容の取扱いのポイント

- 小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。
  - ・地域の小学校における外国語活動の指導において、どの程度の素地が養われているのかを十分に把握するとともに、扱われている単語や表現などについてもきめ細かく把握した上で、特に第1学年の指導計画の作成の参考にすることが大切である。
- 外国語科においては、英語を履修させることを原則とする。
  - ・英語が世界で広くコミュニケーションの手段として用いられている実態や、これまでほとんどの学校で英語を履修してきたことなどを踏まえて、英語を履修させることを原則とする。
  - ・「原則とする」とは、学校の創設の趣旨や地域の実情、生徒の実態などによって、英語以外の外国語を履修させることもできるということである。
- 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。
  - ・外国語科における道德教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教員の態度や行動による感化とともに、外国語科の目標と道德教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う必要がある。
  - ・外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深めることは、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながるものである。
  - ・外国語科で扱った内容や教材の中で適切なものを、道德の時間に活用することが効果的な場合もある。また、道德の時間で取り上げたことに関係のある内容や教材を外国語科で扱う場合には、道德の時間における指導の成果を生かすように工夫することも考えられる。そのためにも、外国語科の年間指導計画の作成などに際して、道德教育の全体計

画との関連を考慮し、指導の内容及び時期等に配慮し、効果を高めることができる関連について具体的な見通しをもつことが大切である。

## 4 指導例

### ◆第1学年の指導例

#### 1. 題材名 「奈良を訪れる外国の人にインタビューしてみよう」

#### 2. 題材について

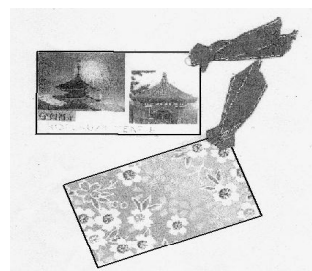
奈良県には、世界遺産をはじめ歴史的価値の高い文化財や自然景観、伝統行事がたくさんある。本題材は、奈良県を訪れる外国人観光客に、奈良や日本の印象などについてインタビューするとともに、奈良の魅力外国人に伝えることを通して、コミュニケーションへの関心・意欲を高めることをねらいとしている。インタビューについては、各学校の実情や生徒の発達段階に応じて計画する。例えば、1年生ではインタビューを行う、2年生では観光PRを実施するなど、発達段階に応じて取組を計画したり、小学校の外国語活動との関連を生かした教材や生徒の英語力の実態に合わせた教材を工夫したりすることでさらにコミュニケーションへの関心・意欲を高めるとともに、生徒自ら郷土奈良のすばらしさに気付く活動につなげたい。

#### 3. 学習目標

- ・小学校から中学1年生までに学習した英語表現を活用し、インタビューをする。
- ・外国人へのインタビューを通して、文化の多様性を理解する。
- ・奈良の文化や行事、建物などについて英語で説明したり、インタビューしたりすることで、英語をコミュニケーションの手段として積極的に使おうという態度を育成する。

#### 4. 準備物

- ・インタビューのワークシート
- ・奈良の文化財紹介の原稿
- ・折り紙作品や、写真を貼ったカードなどのプレゼント



#### 5. 指導計画

- ・インタビューの仕方を学び、友達やALTとのロールプレイでインタビューの練習をする。  
(第1時)
- ・奈良の文化や行事、文化財などについて、英語で説明文を作る。(第2時)
- ・校外学習などの機会を利用して、実際にインタビューしてみる。(第3時)

#### 6. 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
	/	/	/	

聞く 評価 規準				①（文化についての理解）外国人へのインタビューを通して、文化の多様性を理解している。
話す こと の 評価 規準	①（言語活動への取組）間違えることを恐れず、積極的に会話している。 ②（言語活動への取組）グループで協力して、積極的にインタビューに取り組んでいる。	①（適切な発話）場面や状況にふさわしい表現を用いて会話することができる。		
読む こと の 評価 規準			①（正確な読み取り）語句や表現、文法などの知識を活用して、資料の内容を正確に読み取ることができる。	
書く こと の 評価 規準		②（適切な筆記）読み手に情報が伝わるように、適切な語句や表現などを用いて書くことができる。		

### 7. 指導と評価の計画（全3時間）

時	学習活動	単元の評価規準との関連	評価等
1	・外国人へのインタビューの質問文を覚え、会話する。 ・資料の対話文を参考にして、ペアやグループで会話する。	イー① アー①	学習の様子の観察 学習の様子の観察
2	・文化財の説明文の内容を理解する。 ・自分が説明したい文化財や伝統行事などを、英語で説明する。	ウー① イー②	学習の様子の観察 ワークシートの確認
3	・グループで外国人にインタビューをする。 ・インタビューの内容や感想を記録する。	アー② エー①	学習の様子の観察 ワークシートの確認

### 8. 指導の展開（全3時間）

#### 第1時

段階	学習活動	指導上の留意点	評価項目	準備物
導入 5分	・資料No. 1の対話文を聞き、内容を理解する。	・ALTとペアでモデルリーディングする。		資料 No. 1 (p.16)
展開 45分	・ペアで練習する。 ・インタビューの質問を練習する。 ・資料の対話文を参考にし	・役割を決めて暗唱させる。 ・定型表現として覚えるように指示し、練習させる。 ・相手がアレンジした質問に返答できな	イー① アー①	

	て、自分でアレンジしてペアやグループで会話する。 ・実際にインタビューする質問文を考える。	いなど、上手く会話できない生徒を支援する。 ・ALTや教員とロールプレイを行う。 ・相手に失礼な表現にならないように気を付けさせる。		
--	--	--	--	--

### 第2時

段階	学習活動	指導上の留意点	評価項目	準備物
導入 10分	・資料 No. 2 の文化財の説明文を聞く。 ・未習の単語を練習し、本文を音読する。	・モデルリーディングする。 ・指導者の後について、音読練習するよう指示する。		資料 No. 2 (p.17)
展開 40分	・説明文の意味を読み取る。 ・自分が説明したい文化財や伝統行事などを決め、英語で説明文を作る。	・難しい表現については、説明し、内容を理解させる。 ・図書室などで文化財の下調べをしておき、説明文を考えさせる。和英辞典を使用して英作文するよう助言する。	ウー①  イー②	和英辞典

### 第3時



段階	学習活動	指導上の留意点	評価項目	準備物
展開 40分	・外国人へのインタビューを実施する。 ・文化財や伝統行事などの説明をする。 ・相手の答えなどをワークシートに記録する。	・生徒の様子を観察する。 ・資料 No. 2 を基に考えた説明をさせる。 ・インタビューとワークシートへの記入を繰り返して行うよう指示する。	アー②	ワークシート 資料 No. 2 プレゼント
終末 10分	・インタビューの内容や感想を記録する。	・グループで相談して記録させる。 ・実際に外国人と会話したとき、自分が使った英語が通じたことを確かめさせる。	エー①	



外国の人に、英語でインタビューしてみよう

奈良には多くの外国の人が観光に来ています。奈良や日本の印象、その人の母国のことなどを実際に聞いてみよう。そして、奈良の文化や行事を英語で説明して観光PRをしてみよう。

◎英語でインタビュー


A: Excuse me. We are junior high school students in Nara. May I ask you some questions?	B: Sure.	
A: Where are you from?	B: I'm from England.	
A: Is this your first visit to Nara?	B: Yes. I came to Nara yesterday.	
A: What do you like best about Nara?	B: Nara Park is very beautiful. I can see many deer in Nara Park.	
A: This is Todaiji Temple. Please go and see it.	B: Oh, it's nice.	
A: Thank you very much. This is a present for you, a hand-made card.	B: Thank you. Wow, it's very beautiful!	
A: Have a nice trip. Good-bye.	B: Good-bye.	

May I ~? ~してもいいですか hand-made 手作りの deer 鹿

◎インタビューによく使われる表現と答えの例

<質問の例>	<答えの例>
May I ask you some questions? 質問をしてもいいですか。	{ Sure. I'm sorry. I'm busy.
Where are you from? どこから来られたのですか。	{ I'm from England. From New York.
Is this your first visit to Nara? 奈良に来られるのは初めてですか。	{ Yes, I came here two weeks ago. No, I visited Japan last year.
What do you like best about Nara? 奈良のどこが一番気に入りましたか。	{ Horyuji Temple is very big and old. I like <i>somen</i> . It's delicious.
What is your favorite Japanese food? 一番好きな日本の食べ物は何ですか。	{ I like <i>sushi</i> . I tried <i>okonomiyaki</i> . It was good.
What is your favorite place in your country? あなたの国で一番好きな場所はどこですか。	{ I like London very much. The Lake District is very beautiful.
Please tell me about your country. あなたの国のことを教えてください。	
May we take a photo with you? 一緒に写真を撮らせてもらってもいいですか。	{ Sure. No.
This is a present for you. これはあなたへのプレゼントです。	{ Thank you very much. Oh, it's beautiful!
Have a nice trip. どうぞ、旅行を楽しんでください。	{ Good-bye. Thank you.


英語で観光PR ～奈良の文化財を英語で説明しよう～



◎東大寺の大仏

Todaiji Temple is famous for *Daibutsu*, a big statue of Buddha. You can see it in the *Daibutsuden* Hall. It is one of the largest wooden buildings in the world. The *Daibutsu* sits inside the *Daibutsuden*. It is about 15 meters tall and the *Daibutsuden* building is about 50 meters high. It is very big! Please go and see it.

Emperor Shomu made it in the 8th century. And now it is a UNESCO World Heritage Site.



◎高松塚古墳と壁画

Do you know Takamatsuzuka Tomb in Asuka Village? Many people in Japan know it because it has beautiful old wall paintings. We can see men, women, and some animals in them. The paintings are in full color with red, blue, gold, silver and so on. You can visit the museum near the tomb. They are national treasures.

○説明文を参考にして、自分で説明したい文化財や行事を選んで、英文を作ってみよう。

上のワークシートで作文し、下には自由に英文を作ろう。

絵や写真	説明文
文化財の名前	This is _____ .
文化財の種類や特徴	It is _____ .
その文化財の有名なもの	It is famous for _____ .
そこへ行けば見られるもの	You can see _____ there.

--	--

## ◆第2学年の指導例

### 1. 題材名 「What do you want to preserve?」

### 2. 題材について

本題材では、春日山原始林を取り上げている。春日山原始林は、1998年に春日大社などとともに「古都奈良の文化財」としてユネスコ世界遺産に登録された。市街地近くに1000年以上もの間、人の手が入らずほぼ原始のままの形で自然が残されている。春日山原始林についての資料を読み、地域の特性やよさ、どのように守られてきたか、自分たちにできることは何かなどについて気付いたり考えたりさせる過程で、ペアワークやグループワークなどの学習形態を取り入れて言語活動の充実を図り、資料の内容について感想と併せて理由を述べることにより、共感を得たり説得力を高めたりできることを学ばせる。

### 3. 学習目標

- ・春日山原始林についての英文を読み、その内容を理解する。
- ・want to ～やbecause ～を使って、自分がしたいことだけでなく、その理由も表現する。
- ・守りたい奈良の景観や文化について、その理由とともに英語で説明する。

### 4. 評価規準

	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力
話 評す 価こ 規と 準の	①（言語活動への取組）間違 うことを恐れずに、既習の表 現を利用して説明している。		
読 評む 価こ 規と 準の			①（正確な読み取り）語句 や表現、文法などの知識を 活用して、資料の内容を正 確に読み取ることができる。
書 評く 価こ 規と 準の		①（適切な筆記）読み手に情 報が伝わるように、適切な語 句や表現、文法などの知識を 活用して、自分の意見や考え を書くことができる。	

### 5. 指導の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価項目	準備物
導入 5分	・オーラルイントロダクショ ンを聞く。	・理解を助けるために、写真などを見せな がら、春日山原始林についてのオー ラルイントロダクションをする。		春日山原 始林の写 真
展開 40分	・Word List の単語の発音 と意味を確認する。 ・ワークシートの【1】、【2】	・モデルリーディングをする。 ・読み取りが難しい部分の説明をする。	ウー①	春日山原 始林の資 料

	<p>の質問の解答を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解答を確認する。</li> <li>・資料を音読する。</li> <li>・チャンク読みをする。</li> <li>・ワークシート【3】をする。 一人が日本語を読み、もう一人が英語で言う。</li> <li>・何人か発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の英文のどの部分が解答のヒントになるのかを確認させる。</li> <li>・強勢、イントネーション、区切りに気を付けて読ませる。</li> <li>・意味を考えながらチャンク読みをするよう指示する。</li> <li>・英語で言えているか確認をする。</li> <li>・ペアで協力して行うよう指示する。</li> <li>・何人かに発表させる。</li> <li>・理由と共に意見を述べさせるように発問する。 ex. Why do you want to preserve the mountain?</li> <li>・ペアやグループで練習し、その後、個人練習させる。</li> <li>・リプロダクションした文に自分の意見を付け加えさせる。</li> <li>・生徒の意見を促す発問を工夫する。 ex. Did you know about it? Is it good? Do you think so too? Do you agree?</li> </ul>	<p>ワークシート(p.20)</p>	<p>ワークシート(p.20)</p>
<p>終末 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート【3】の下線部の語句をキーワードに、春日山原始林を説明する文をリプロダクションする。</li> <li>・発表する。</li> <li>・ワークシート【4】をする。</li> <li>・ペアで自分の意見を紹介し合う。</li> <li>・何人か発表する。</li> <li>・意見や感想等を述べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リプロダクションした文に自分の意見を付け加えさせる。</li> <li>・生徒の意見を促す発問を工夫する。 ex. Did you know about it? Is it good? Do you think so too? Do you agree?</li> <li>・一番印象に残った文を書き、自分の意見を英語で付け加えさせる。</li> <li>・書き終わったペアに互いの文をチェックさせ、意見を述べ合うようにさせる。</li> <li>・様々な意見があることに気付かせる。</li> <li>・学習内容を振り返り、新しく知ったことや、感じたことなどを発表させる。</li> </ul>	<p>アー①</p> <p>イー①</p>	<p>英語で書かれたキーワードのカード</p>

Mt. Kasuga Primeval Forest (春日山原始林)

Do you know Mt. Kasuga? Mt. Kasuga was “the Mountain of Gods” for people in ancient Nara. It was believed that a God came to Mt. Kasuga on a white deer. The deer was a messenger of God and a very important animal in Nara.

Mt. Kasuga is located very close to the downtown area of Nara City. But when you walk into its forest, you can see the same landscape as the old days. There are many kinds of trees, plants and animals. Hunting and cutting trees in the mountain were prohibited in 841. So most of the trees are more than 1,000 years old and very big. About 1,100 deer and many other wild animals live there. Some of them are very rare. But the number of animals is decreasing today. The animals and the trees will disappear if we do nothing.

The forest was designated as a UNESCO World Heritage Site in 1998. So now, a lot of people work together and protect the forest and animals. They want to preserve them for the future.

— Word List —

God 神    ancient 古代の    messenger 使者    located 位置する  
downtown area 商業地区    landscape 風景    hunting 狩猟  
prohibit 禁止する    rare 珍しい    decrease 減少する  
disappear 消滅する    designate 指定する  
UNESCO World Heritage Site ユネスコ世界遺産    preserve 保存する

- 【1】資料の内容について、(       ) にあてはまる語句を答えましょう。
- (1) 春日山では、841年に(       ) と(       ) が禁止された。
  - (2) 春日山では樹齢(       ) の巨樹古木が見られる。
  - (3) 多くの人が協力して春日山と動物を(       )。

- 【2】次の下線部にあてはまる語句を答えましょう。
- (1) It was believed that \_\_\_\_\_ came to Mt. Kasuga on \_\_\_\_\_.
  - (2) There are many kinds of \_\_\_\_\_ in the mountain.
  - (3) The animals and trees will \_\_\_\_\_ if people do nothing.

- 【3】ペアになって、春日山原始林を守る人になったつもりで、(1)から(10)の日本語を英語に直して、Because に続けて言ってみましょう。
- I want to preserve Mt. Kasuga. Because …
- (1) 「神々の山」だから                      (2) 商業地区に近い所に位置しているから
  - (3) 昔と同じ風景を見ることができるから    (4) たくさんの動植物がいるから
  - (5) 841年に狩猟や伐採が禁止されたから    (6) 樹齢1000年以上の木があるから
  - (7) 約1100頭の鹿と野生生物が住んでいるから    (8) 野生生物が減少しているから
  - (9) 何もしないと消滅してしまうから    (10) ユネスコ世界遺産に登録されたから

- 【4】あなたが印象に残った英文を抜き出し、その文に対する自分の意見を付け加えましょう。
- -----  
-----

### ◆第3学年の指導例

#### 1. 題材名 「Dancing firelights in the night sky」

#### 2. 題材について

本題材では、一般的に「大文字焼き」として知られている奈良県の伝統行事「送り火」を題材として扱う。言語材料としては、受動態、現在完了、不定詞、過去分詞、最上級などを扱い、三年間の復習の題材となっている。

学習活動では、一つのテーマに沿ったまとまりのある英語を聞き、必要な情報を理解できるようになること、特に中心となる事柄を的確に読み取ることに重点を置いている。手がかりとなる語句や表現を理解させてから英文を聞かせたり、難しい表現は別の表現で言い換えたりして生徒の理解を助ける。読む活動では、自分に合った速度で内容を確認しながら読むことができる黙読、意味を考えまとまりを意識しながら読むチャンク読み、ペアでの音読などを効果的に取り入れ、正しく内容を理解できるようにする。また、資料を読んで理解するだけでなく、その内容について感想や意見を述べ合う活動などの言語活動を充実させ、表現力を高める。

#### 3. 学習目標

- ・「送り火」についての英文を聞いて、内容を理解する。
- ・黙読、チャンク読み、ペアワークでの音読により、内容を正しく理解する。
- ・奈良県の伝統行事について、自分の感想や意見などを述べる。

#### 4. 評価規準

	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力
聞 評く 価こ 規と 準の			①（適切な聞き取り）まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ることができる。
話 評す 価こ 規と 準の	①（言語活動への取組）奈良県の伝統行事についての感想や知っていることについて積極的に発言している。		
読 評む 価こ 規と 準の	②（言語活動への取組）黙読、チャンク読み、ペアワークでの音読などに積極的に取り組んでいる。	①（適切な音読）資料の内容が表現されるように適切に音読することができる。	②（正確な読み取り）語句や表現、文法などの知識を活用して、資料の内容を正確に読み取ることができる。

#### 5. 指導の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価項目	準備物
導入 5分	・写真を見て、質問に答える。	・京都や奈良の送り火の写真を見せ、どこの「大文字焼き」の写真なのかなどを簡単な英語で質問し、関心をもたせる。		送り火の写真

<p>展開 35分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Word List の発音練習をする。</li> <li>・ 英語を聞きながら資料 No. 1 【1】をする。</li> <li>・ 黙読する。</li> <li>・ コーラルリーディングをする。</li> <li>・ チャンク読みをする。</li> <li>・ 資料No. 1 【2】をする。</li> <li>・ ペアで学習シートをする。</li> <li>・ 資料No. 1 【3】をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Word List を発音させ、意味の確認をする。</li> <li>・ 英文をモデルリーディングし、概要を理解させる。</li> <li>・ 難しい表現は、生徒の分かりやすい英語に置き換え、内容の理解を助ける。</li> <li>・ 自分に合った速度で、英文を通して読ませる。</li> <li>・ 強勢、イントネーション、区切りに気を付けて読ませる。</li> <li>・ 意味を考えながらチャンク読みをし、概要を把握させる。</li> <li>・ 資料を参考にして空欄に書き込ませることで内容理解を深めさせる。</li> <li>・ 相手の読む英文を参考に、訳を完成させるよう指示する。</li> <li>・ 内容が読み取れなかったところを説明する。</li> <li>・ 今までに学習した英語表現を活用し、英作文させる。</li> </ul>	<p>ウー①</p> <p>アー② イー①</p> <p>ウー②</p> <p>アー②</p>	<p>資料 No. 1 (p.23)</p> <p>学習シート</p> <p>資料 No. 1</p>
<p>終末 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コラムを読む。</li> <li>・ 奈良県の伝統行事についての感想や知っていることなどを英語で述べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コラムを読ませ、奈良県の伝統行事についての感想や知っていることなどを述べさせる。</li> <li>・ 資料の英文を参考にして英語で表現するようアドバイスする。</li> </ul>	<p>アー①</p>	

### <学習シート>

#### 「夜空に踊る火の明かり」

あなたは「大文字送り火」を（ **知っていますか** ）。それはよく大文字焼きと（ **呼ばれています** ）。（ **京都** ）の大文字送り火はとても（ **有名** ）です。しかし、（ **奈良** ）にも大文字送り火があります。

奈良では、大文字送り火は毎年（ **8** ）月15日に高円山で（ **行われます** ）。1960年から（ **行われています** ）。

奈良県出身の29,243人の人々が第二次世界大戦で（ **命を落としました** ）。大文字送り火は亡くなった人々の慰霊祭として、そして（ **平和** ）を祈るために（ **始められました** ）。火で（ **書かれた** ）「大」は宇宙を（ **意味します** ）。この「大」は日本で（ **最も大きな** ）文字です。第1画は109mです。（ **2画目** ）は164mです。3画目は128mです。

毎年たくさんの人々が（ **見に来ます** ）。「大」は108の火の明かりで形作られています。火の明かりは約（ **30** ）分間燃え続けます。その火の明かりは（ **踊っています** ）。（ **夜空** ）の美しい火の明かりはとてもすばらしいです。火の祭典を（ **見に来ませんか** ）。

Dancing firelights in the night sky (夜空に踊る火の明かり)

Do you know “Daimonji Okuribi”? It is often called “Daimonji Yaki.”

“Daimonji Okuribi” in Kyoto is very famous. But there is also

“Daimonji Okuribi” in Nara.

In Nara, "Daimonji Okuribi" is held at Mt. Takamado on August 15 every year. It has been held since 1960.

29,243 people in Nara lost their lives in the Second World War.

"Daimonji Okuribi" was started as a memorial service for them and to pray for peace.

"Dai" written with fire means “Universe”. This “Dai” is the biggest letter in Japan. The first stroke line in the letter is written is 109m long. The second stroke line is 164m long. The third stroke line is 128m long.

Every year many people come to see it. Dai is formed by 108 firelights. The firelights continue to burn for about thirty minutes.

They are dancing. Beautiful firelights in the night sky are so wonderful.

Why don't you come to see the fire festival?

— Word List —

Mt. Takamado 高円山      the Second World War 第二次世界大戦  
a memorial service 慰霊祭      pray 祈る      Universe 宇宙  
firelights 火の明かり      is formed by ~で形作られている  
continue to ~し続ける      burn 燃える      in the night sky 夜空の  
Why don't you ~? ~してみませんか      the fire festival 火の祭典

【1】資料の内容について、内容と合っていれば○を、違っていれば×を ( ) に書きましょう。

- (1) 「大文字送り火」は奈良にしかない。 ( )  
(2) 奈良の「大文字送り火」の「大」は日本一大きい。 ( )  
(3) 美しい火の明かりは約1時間燃え続ける。 ( )

【2】次の英文の内容に合うように ( ) に日本語を書きましょう。

- (1) In Nara, "Daimonji Okuribi" is held at Mt. Takamado on August 15 every year.

奈良では、「大文字送り火」は ( ) に高円山で ( ) 。

- (2) 29,243 people in Nara lost their lives in the Second World War. "Daimonji Okuribi" was started as a memorial service for them to pray for peace.

奈良出身の29,243人の人が第二次世界大戦で ( ) 。

「大文字送り火」は、亡くなった人々の ( ) として、そして ( ) を祈るために始められた。

- (3) “Dai” written with fire means “Universe” .

( ) 「大」は「宇宙」を意味します。

【3】資料の英文を参考にして、次の文を英語で書きましょう。

- (1) 奈良にはたくさん見るところがあります。  
(2) 八経ヶ岳(=Hakkyogatake)は奈良県で一番高い。  
(3) 私と一緒に来ませんか。

【コラム】

火を着ける場所は「火床」と呼ばれ、108個あり、セメントで作られています。「火床」の近くでは、並んだ「火床」は、「大」の文字に見えません。どのようにして山の下から見て「大」の文字に見えるように配置したのでしょうか。今なら携帯電話で連絡が取れますが、携帯電話がない時代は、白旗を降って合図とし、双眼鏡をのぞきながら位置を決めたそうです。



火床で木を組む人々



— 作 成 委 員 —

小鍛冶 光 弘	奈良市立登美ヶ丘北中学校	校 長
吉 田 牧 子	奈良市立興東中学校	教 諭
桑 山 洋	奈良市立平城西中学校	教 諭
大 澤 伸 好	大和高田市立高田西中学校	教 諭
前 田 康 二	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指 導 主 事
山 口 聡 子	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指 導 主 事

(作成委員の職名等は平成22年度のものである。)